

不登校に関する教職員研修シリーズ

不登校のアセスメントと 予防のための取り組み

北海道医療大学心理学部

富家直明

HOKKAIDOプラン～支援を受けていない子をゼロに
児童生徒理解・支援シートの書き方
どのような情報を収集し、どのように評価するか
予防のための取り組みの紹介
ほっとを使った評価の方法

HOKKAIDO不登校対策プラン【概要版】

1 本プラン策定の趣旨等

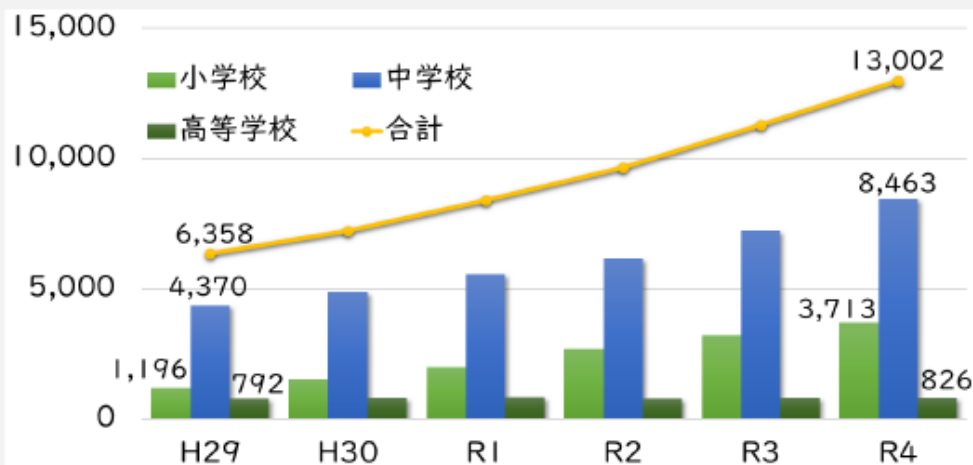
- ・本道の不登校の現状と課題を踏まえ、不登校対策の基本的な方向や具体的な取組内容など、学校や教育委員会が重点的・継続的に取り組むことについて、国の不登校対策（COCOLOプラン）を参考にし、本プランを策定する
- ・実施期間は、現行の北海道教育推進計画の計画期間を踏まえ、令和6年度(2024年度)から令和9年度(2027年度)までの4年間とする

2 不登校児童生徒への支援の基本的な考え方

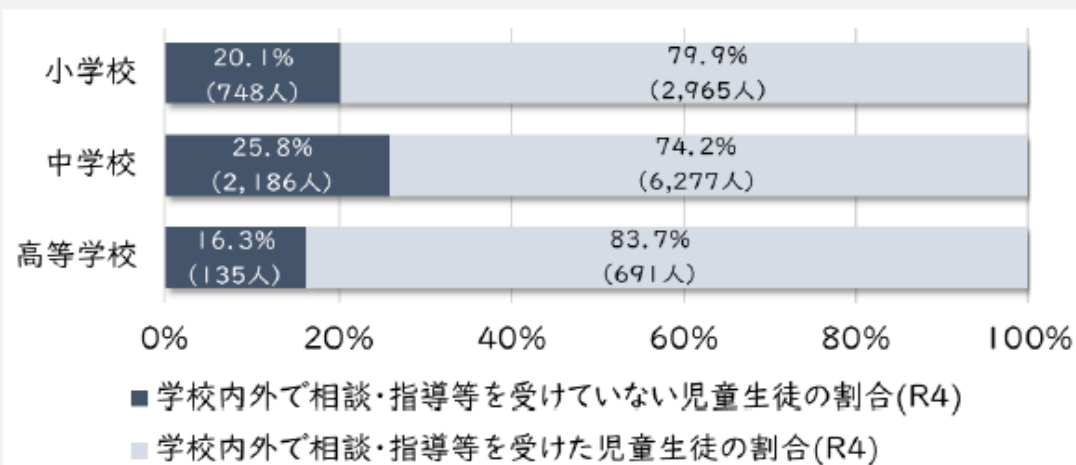
- ・「学校に登校する」という結果のみを目標にするのではなく、児童生徒が自らの進路を主体的に捉えて、社会的に自立することを目指す必要があること
- ・不登校の時期が休養等の積極的な意味を持つことがある一方で、学業の遅れや進路選択上の不利益が存在することに留意すること
- ・学校教育の役割は極めて大きく、学校教育の一層の充実を図るための取組が重要であること
- ・学校としてどのように受け入れていくかを検討し、学校になじめない要因の解消に努める必要があること

3 本道の公立学校における不登校の状況と課題

【本道の不登校児童生徒数の推移】



【学校内外で相談・指導等を受けていない児童生徒数】



児童生徒理解・支援シートとは

支援の必要な児童生徒一人一人の状況を的確に把握するとともに、当該児童生徒の置かれた状況を関係機関で情報共有し、組織的・計画的に支援を行うことを目的として、学級担任、対象分野の担当教員、養護教諭等の教員や、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー等を中心に、家庭、地域及び医療や福祉、保健、労働等の関係機関との連携を図り、学校が組織的に作成する資料のこと

児童生徒理解・支援シート(共通シート)

作成日:平成 年1 月 日 ※の事項は障害のある児童生徒、外国人児童生徒等で必要な場合に記入
作成者 HO(記入者名) 追記者 HO(記入者名)/HO(記入者名)/...

(児童生徒) 名 前 (よみがな)	性別	生年月日 平成 年 月 日	国籍等(※)	出生地(※)										
0														
(保護者等) 名 前 (よみがな)	続柄(※)	学校受入年月日(※) 平成 年 月 日	連絡先											
○学年別欠席日数等	追記日	○/○												
年度														
学年	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3	高1	高2	高3	高4	
出席しなければならない日数														

文部科学省

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/seitoshidou/_icsFiles/afieldfile/2018/05/24/1405493_001.pdf

北海道教育委員会

https://www.dokyoι.pref.hokkaido.lg.jp/fs/5/5/9/6/5/4/3/_/300425_no91-2.xlsx

児童生徒理解・支援シートはいつから

不登校児童生徒への支援は、早期から行うことが重要であり、予兆への対応を含めた初期段階から情報を整理し、組織的・計画的な支援につながるようにする必要があります。そのため、**30日**という期間にとらわれることなく、**前年度の欠席状況や、遅刻、早退、保健室登校、別室登校等の状況を鑑みて、早期の段階からシートを作成することが望まれます。**

児童生徒理解・支援シートは共有することが大事

長期的な支援が必要である場合や、支援が必要でなくなった後、**再度支援が必要となる場合**もあるため、**進学・転学先の学校で以前の情報が共有されることは非常に重要**です。

個人情報の保護に関しては、公立学校には、当該学校を設置する地方公共団体の個人情報保護条例が適用され、個人情報を第三者へ提供する際には本人の同意を得ることが原則とされています。そのため、**計画を作成する際に、本人や保護者に対し、その趣旨や目的をしっかりと説明して理解を得、第三者に引き継ぐことについても、あらかじめ範囲を明確にした上で、同意を得ておくことが必要**です。

また、あらかじめ入学時等に形式的な同意を得ているとしても、実際に第三者に提供する際には、**本人や保護者とともに引き継ぐ内容を確認**することで、**互いの考えや思いを共有することができ、よりよい引継ぎに。**

児童生徒理解・支援シート

～共有の同意が得られない場合～

本人・保護者と連絡が取れない，本人・保護者が第三者への提供を拒否するなど，本人・保護者の同意を得ることが困難な場合であっても，当該児童生徒への継続的・組織的な支援の観点から，進学先や転校先の学校に情報を共有（提供）することが重要。

公立学校が公立学校又は国立学校に，支援が必要な児童生徒への継続的・組織的な支援のために，必要不可欠な範囲で情報を提供することは，一般に，社会通念上客観的にみて合理的な理由があるものと認められ，同法第8条第2項第3号に相当する規定の「相当な理由のあるとき」に該当し，また，私立学校・株立学校に同様の情報を提供することは，一般に同項第4号に相当する規定の「本人以外の者に提供することが明らかに本人の利益になるとき」に該当し，本人や保護者の同意を得ることが困難であっても，第三者提供の原則禁止の例外として認められるとも考えられる。

あくまでも当該児童生徒や保護者の同意を得ることが原則であり，引き継ぎを望まない場合であっても，その理由を聞きつつ，引き継ぐことの利点や，どの程度の内容であれば引き継ぐことが可能かについて話し合うなど丁寧に対応することが重要。同意を得る努力をしないまま安易に引き継ぐことは適切ではない。また，当該児童生徒や保護者から情報の引継ぎについて同意を得る際には，児童生徒や保護者に対して，提供しようとする情報の具体的な内容を示して同意を得ることが必要です。

指導要録の保存期間に合わせて，5年間保存されることが文書管理上望ましい。

児童生徒理解・支援シート(共通シート)

作成日:平成 年1 月 日 ※の事項は障害のある児童生徒、外国人児童生徒等で必要な場合に記入

作成者 HO(記入者名) 追記者 HO(記入者名)/HO(記入者名)/...

(児童生徒) 名前 (よみがな)	性別	生年月日 平成 年 月 日	国籍等(※)	出生地(※)
0				

(保護者等) 名前 (よみがな)	続柄(※)	学校受入年月日(※) 平成 年 月 日	連絡先

○学年別欠席日数等 追記日 ○/○

年度	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3	高1	高2	高3	高4
出席しなければならない日数													
出席日数													
別室登校													
遅刻													
早退													
欠席日数													
指導要録上の出席扱い													
①教育支援センター													
②教育委員会所管の機関(①除く。)													
③児童相談所・福祉事務所													
④保健所、精神保健福祉センター													
⑤病院、診療所													
⑥民間団体、民間施設													
⑦その他の機関等													
⑧IT等の活用													

○支援を継続する上での基本的な情報

特記事項(本人の強み、アセスメントの情報、家庭の様子、障害の種類・程度・診断名・障害者手帳の種類・交付年月日(※)、学習歴(※)、日本語力(※)等)

○家族関係

特記事項(生育歴、本人を取り巻く状況(家族の状況も含む。)、作成日以降の変化、家族構成(※)、家庭内使用言語(※)等)

○指導歴

共通シート

出欠席日数の記載にあたり、小中高間での引き継ぎが必要になる。
指導要録上の出席とカウントできる各種機関への関わりの日数も必要。

- ①強み（ストレングス）・・・得意、夢中、好きの歴史
- ②その他のアセスメントの情報・・・出来事、苦手やストレス、対処パターン。
- ③家庭での様子・・・睡眠や食事、衛生、家事、ゲーム、学習、人間関係
- ④障害の傾向・・・学力や体力、健康情報等も。
- ⑤生育歴・・・乳幼児期の大きな病気、幼保時代の過ごし方、遊び方。
- ⑥家族・・・構成+属性に関する情報「お父さんについて教えてください。お子さんとの関わりはどのような感じですか？」オープンな質問だと相手は話しやすい。

児童生徒理解・支援シート(学年別 Aシート)

担任名(ふりがな) _____ 管理職名 _____
 作成年月日 _____ 作成者名 _____
 通知年月日(通知者名) _____

○児童生徒名等

名前(ふりがな)	性別	学校名	学年	学級
0	0			

○支援機関名等(校内・校外)

主な支援内容	支援機関名	連絡先電話番号	担当者名
在籍校			
家庭		0	0
福祉			
医療			
その他			

家庭福祉医療機関毎の支援内容を記載する。追記や変更があるたびに書き加えていく。各機関との情報交換が必要。

○月別欠席状況等 ※通知日

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
出席しなければならない日数													0
出席日数													0
別室登校													0
遅刻													0
早退													0
累積欠席日数	0	0			0	0	0	0	0	0	0	0	0
欠席日数(出席扱いを含む)													0
指導要綱上の出席扱い													0
①教育支援センター													0
②教育委員会所管の機関(①除く。)													0
③児童相談所・福祉事務所													0
④保健所、精神保健福祉センター													0
⑤病院、診療所													0
⑥民間団体、民間施設													0
⑦その他の機関等													0
⑧IT等の活用													0

月別に書き込む

○長期欠席、不登校(継続)等欠席状況に関する理由

○次年度への引継事項(支援・指導の参考となるエピソード等も含め、多様な視点で記入)

支援の参考となるエピソード

Aシート

1. 医療機関受診が必要と判断した理由について
 - ①誰が必要と判断したか？
 - ②受診が必要と判断された症状や行動(様子、エピソード)は？
 - ③学校と保護者で何をどのように共有しているか？
 - ④保護者や本人の考えはどうか？
 - ⑤同意の有無(無の場合はその理由)
2. 現状に対し、学校が考えた見立て・対応・結果など、これまでの取り組みとその経過
3. 学校での様子 ○学習面○生活面○対人関係○健康身辺自立
4. 園や前の学校、学年からの引き継ぎの有無とその内容
5. 他機関や巡回相談、スクールカウンセラーなどの利用歴やその結果
6. 心理検査の実施歴(検査報告書に書かれていた支援方法と実際にやったこと、その結果)
7. これからとりくもうと考えていること、とりくめそうなこと(具体的な支援方法やサポート内容)

山形県こころの医療センターの例

児童生徒理解・支援シート(学年別 Bシート)

担任名(ふりがな)	0	管理職名	0
作成年月日	0	作成者名	0
通知年月日(通知者名)	0		

○児童生徒名等

名前(ふりがな)	(0)	性別	学校名	学年	学級
	0	0	0	0	0

○本人・保護者の状況・希望

	現在の状況	将来の希望(進路を含む)
本人		
保護者		

○本学年の目標

○各学期の個別の支援計画

	目標	支援内容	経過・評価
1学期	学校		
	関係機関		
2学期	学校		
	関係機関		
3学期	学校		
	関係機関		

Bシート

「現在の状況」外出ができる、登校ができる、連絡ができてい
る、学習への参加があるなどの評価の他に、生活習慣や人間関
係(交流)など多様な情報を集約する。

「将来の希望(進路含む)」学期内にはじめたい、達成したい
ことは何か。遊びや趣味でも可。夢を叶えるために進路情報を
収集することもはじめたい。

「学期毎の目標」・・・担任が1人で考えないこと。チームで考
える。学校に来ることだけが目標ではなく、支援機関に通うこ
とや、オンライン授業への参加、体力増進、社会教育的地域活
動や遊びを通じた体験活動の増大などを幅広く考える。

「支援内容」・・・様々なアイデアが出せる人と出せない人
(ネタが尽きた人)がいる。長く関わっている人ほどネタが枯
渇しやすいので、チームで対応する。

「経過評価」・・・当事者Aさんに関する結果だけでなく、クラ
ス全体や関与した人の変化なども重要な情報になる。

児童生徒理解・支援シート(協議シート)

記録者 記録者 ○○生徒指導主事 日付 平成 月 月 日

学年	学級	名前	参加者・機関名
0	0	0	

○本人の意向

○保護者の意向

○関係機関からの情報

○支援状況

目 標			
	機関・分掌名	短期目標 ○/○○	経過・評価 ○/○○
役割 分担			

○確認・同意事項

○特記事項

協議シート

ケース検討会議を定期的を開催するほか、状況に応じて臨時の検討会を開く。支援員や養護教諭、SCやSSW、主治医、保健師など多くの意見を集めることで事態の打開が図られることが多い。

「本人の意向」学習に限らず遊びや推し活でも良いので、～したい～がほしいという希望や欲求を収集する。
 「保護者の意向」目先のことと将来的なことにわけて意向を確認する。困りやニーズを確認し、それらの解消を図る試行については意欲的であることが多い。

共通の支援の目標を定め、担当者もしくは機関毎に個々の目標と経過評価を記載する。

不登校のアセスメントとケースの概念化

アセスメント（不登校の状態像の評価と情報の収集）

不登校の重症度の評価（7段階） 🖱️ 岡山県教委の評価リスト

情報の収集方法①相手に聞いて収集する情報（情報の発信者は相手）

②関わりの経験の中から収集できる情報（情報の発信者は自分）

ケースの概念化（Case Conceptualization）

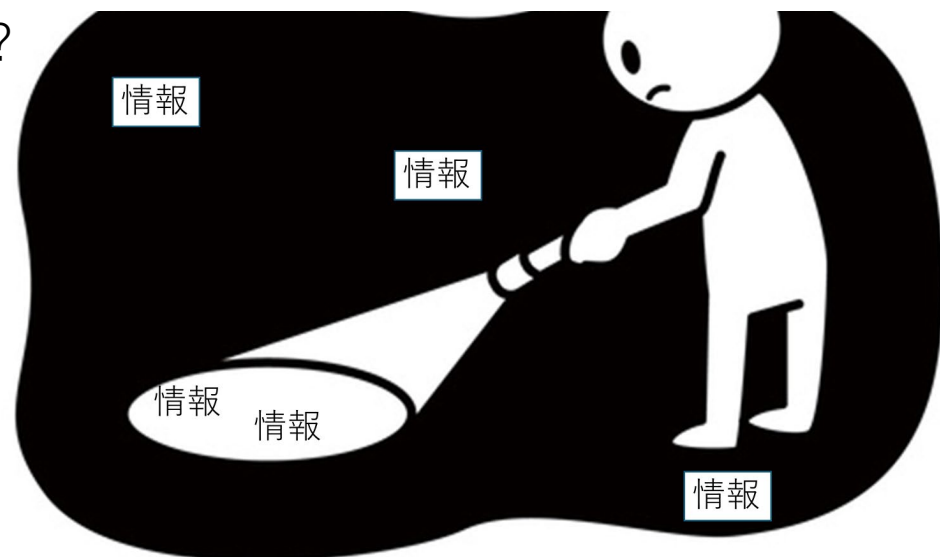
断片的な情報を取捨選択または統合して事例（ケース・・解決や支援を要するニーズを持った存在）として関係者間が共有すること。


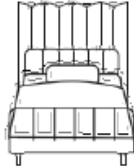





「再登校支援」において、次の6つの情報のうち、優先度はなんですか？

- a. 自閉スペクトラム症（疑）
- b. 起立性調節障害
- c. 数学が苦手
- d. クラスに友達がいない
- e. 牡羊座
- f. 鉄オタ

私の考え b>a>d>e>c

どんな情報が支援の役に立つだろうか？



状態	登校状況	外出状況
状態0  ほぼ普通に登校している	登校できる	外出できる
状態1  遅刻・欠席がしばしばある 保健室通いが多い		
状態2  保健室・別室登校 半分以上欠席している		
状態3  学校以外の施設への 定期的参加ができている	登校できない	外出できない
状態4  比較的気軽に外出できる		
状態5  家庭内では安定しているが 外出は難しい		
状態6  部屋に閉じこもり、家族とも ほとんど顔を合わせない		

不登校の状態評価

状態6 ・ ・ 医療受診、保健師に相談

状態5 ・ ・ 家族（親戚含む）との関係作り、家庭訪問、遠隔教育。行動活性化が目標

状態4 ・ ・ 行動活性化が進行中。行動のレパートリーの多様化が目標（いろんな人と会う、社会教育への参加等）

状態3 ・ ・ 個別最適化が目標（学習内容や進度のマッチング）、健康管理、ストレスマネジメントの知識提供

状態2 ・ ・ 進路の再設定、居場所役割作り、現状の維持

状態1 ・ ・ 再発防止と経過の観察



不登校の支援に関する情報

《健康要因》

生年月日（14や18歳）
睡眠（ソーシャルジェットラグ）
食事・好き嫌いや量
体格（身長・体重）・低血圧
疾患・身体不調歴
身なり整容
健康観察日記

《家族要因》

家族構成・経済・小遣い
親子関係歴・家事分担・ケアラー

《知能発達要因》

遊び、得意不得意、不器用、運動、
利き手矯正、ADHD、LD、自閉

《学習要因》

遅刻や早退
教師との相性
主観的学力（好き嫌い意欲）
学習習慣や取り組み
学級適応（Q-U）
学校行事への参加
冒険・武勇伝

《社会情動要因》

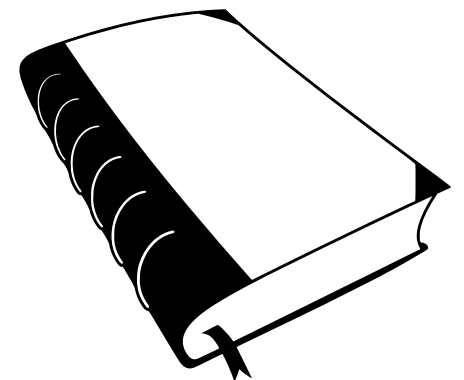
感情（喜怒哀楽）
コミュニケーション力（ほっと）
友人関係・いじめ
好き嫌いへのこだわり
インターネットやゲーム
趣味・推し活

《その他》

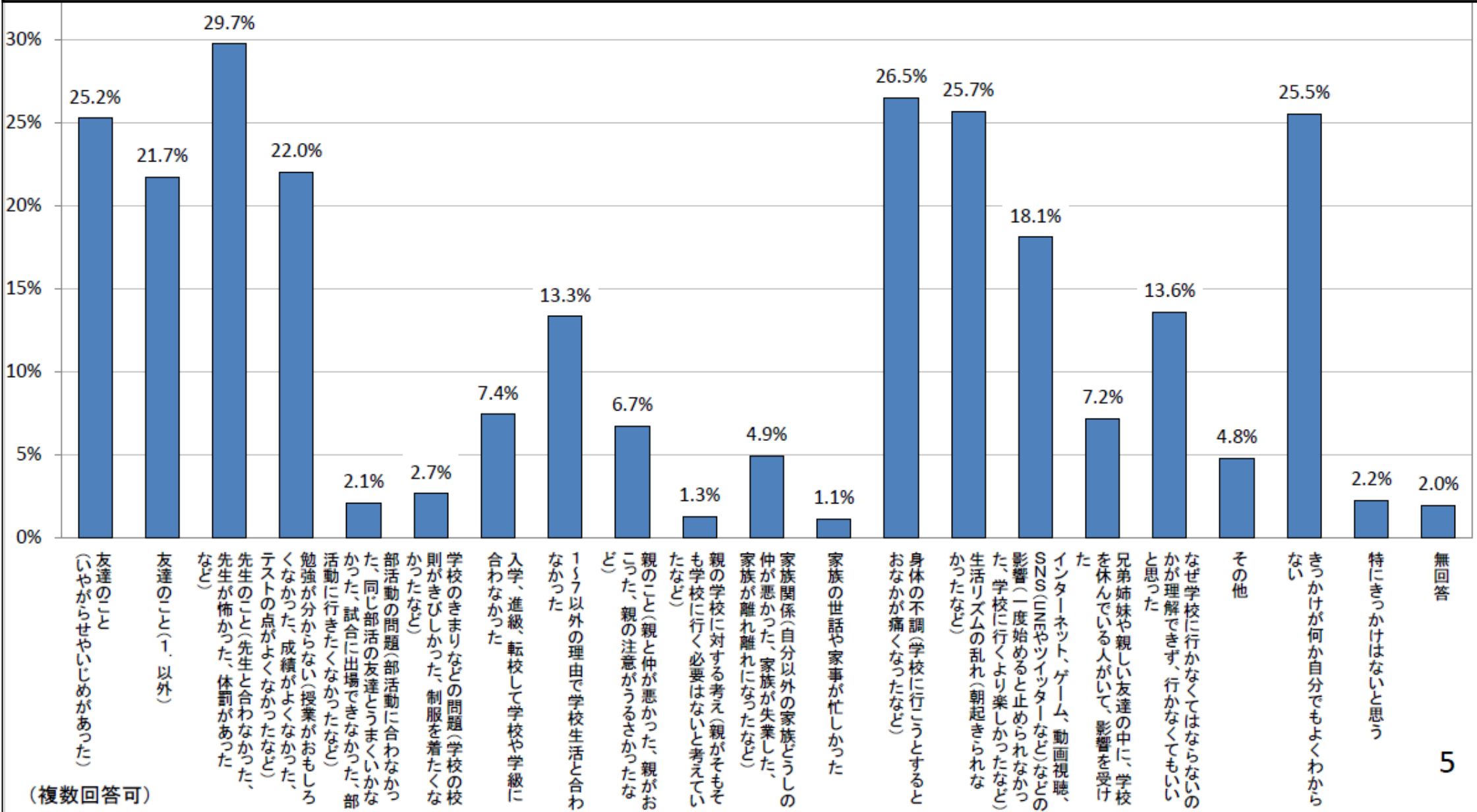
ストレングス
リスク要因
非行・暴力
自傷行為や自殺企図

《支援環境》

相談歴
支援者
支援機関

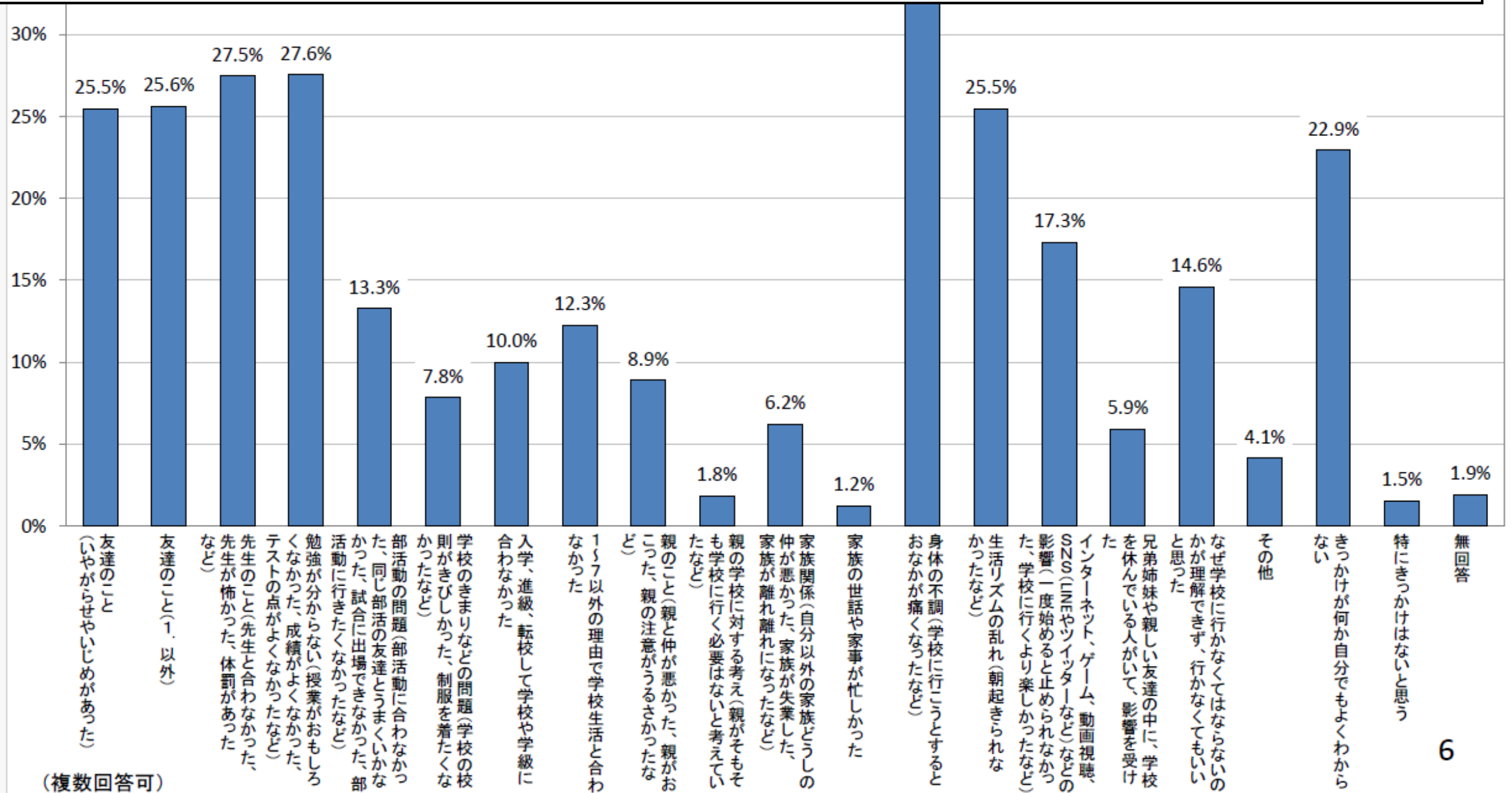


令和2年度不登校児童生徒の実態調査 『最初に行きづらいつ感じ始めたきっかけ（**小学校**）』
 「先生のこと（30%）」 「身体の不調（27%）」 「生活リズムの乱れ（26%）」 がトップ3



(複数回答可)

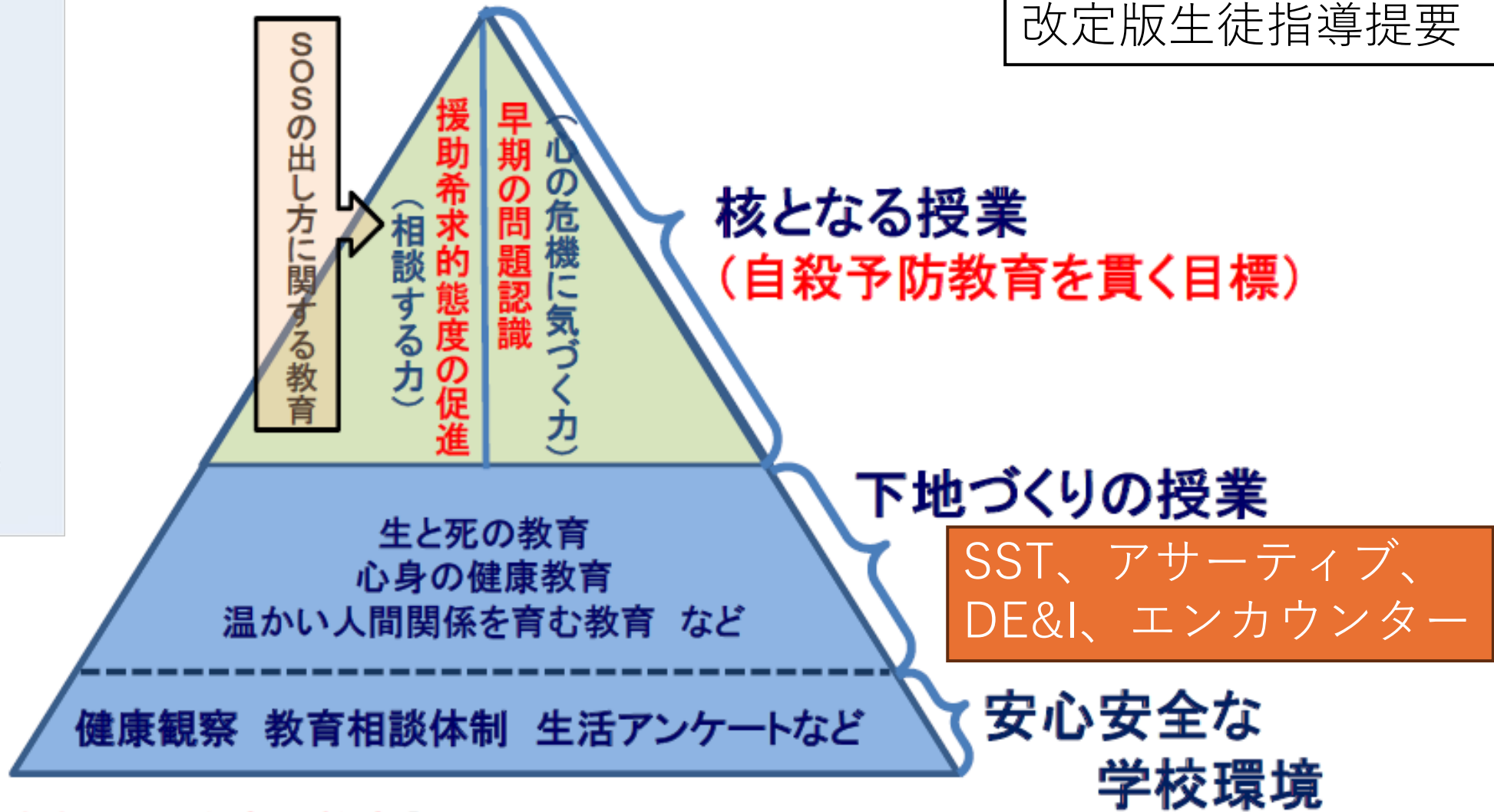
令和2年度不登校児童生徒の実態調査 『最初に行きづらいつ感じ始めたきっかけ（中学校）』
 「**身体の不調(33%)**」「**勉強がわからない(28%)**」「**先生のこと(28%)**」がトップ3



生徒指導提要

令和4年12月
文部科学省

文部科学省
MINISTRY OF EDUCATION,
CULTURE, SPORTS,
SCIENCE AND TECHNOLOGY JAPAN



『未来を生きぬく力を育む教育』として展開

図8-1 SOSの出し方に関する教育を包含した自殺予防教育の構造

ソーシャルスキルトレーニング (SST)

話の聴き方、挨拶や感謝、温かい言葉のかけ方、誘い方、頼み方、司会の仕方、質問の仕方、断り方等について、実践的なスキルをロールプレイを通して体験的に学ぶ。
学級活動に参加できる必要最低限のスキルを学ぶことにより脱落を防ぐ。

上手なきき方・チェック&ふりかえりカード

話のきき方はどうでしたか？ 友達に、よくできたところは○、少しのところは△を書き入れてもらいましょう。

話をきくためのルール	
1	相手に体を向ける。
2	話す人を見る。
3	あいづちをうつ。
4	質問をする。
5	最後まできく。
6	くりかえす。



構成的グループエンカウンター

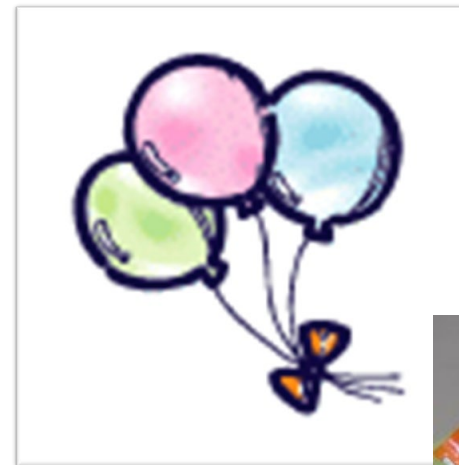
グループでコミュニケーションや自己開示のワークを楽しみながら協働作業の基礎的な体験を行い、良好な人間関係を築きあげるプログラム。豊富なエクササイズがあり本やネットで入手できる。学級開きの時期に最適。
右の写真はエクササイズ「みんなの時計」。1人1分ずつ順番に無言で時計を描きあげる。できあがりがどうなるかはまったく予想がつかない。個性×集団の面白さを実感。



マインドフルネスやセルフコンパッション

マインドフルネスは

- ① 楽な呼吸ができる姿勢を保持する
- ② 深呼吸や腹式呼吸にはこだわらず、呼吸の自由に任せる
- ③ 雑念が生じたら風船にくくりつけて空高く放つイメージ
- ④ 雑念を放り去ったら「では戻ります」と言って、戻る不安や緊張を緩和させる効果や自己肯定感を高める。



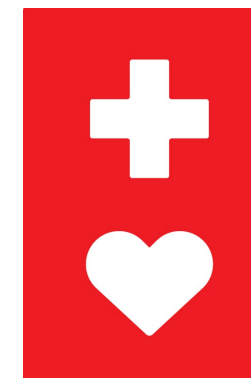
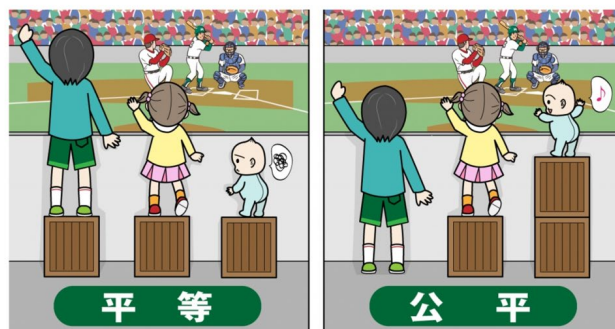
セルフコンパッションは《やさしさ・つながり感・マインドフルネス》のワーク。感情認識、発見型のリラクゼーション、ドラゴン呼吸法など。

DE&I教育

DE&I (Diversity, Equity, and Inclusion)
多様性、公平性、包摂性を促進する教育

包摂社会を形成するために不可欠な教育で、ヘルプの出し方・出され方を学ぶ。第4期教育振興基本計画に組み込まれた。クラス内の差別やいじめ防止に強力な効果。

○公平性 ×平等性



生徒指導提要の改訂 重層的支援構造

生徒指導の分類を、発達支持的生徒指導・課題予防的生徒指導・困難課題対応的生徒指導の3つに分ける。場合別、かつ包括的な支援が必要。



子ども理解支援ツールほっとを使った評価

ふりかえりシート

次の文をよく読んで、いつものあなたにあてはまる番号を○でかこんでください。

例にならって、「あてはまる」ときは4、「ややあてはまる」ときは3、

「あまりあてはまらない」ときは2、「あてはまらない」ときは1を○でかこんでください。

	あてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない
例 早寝早起きをいつも心がけている	4	3	2	1
1 朝や帰りの会でみんなといっしょにあいさつができる	4	3	2	1
2 何かをしてもらったときに「ありがとう」と言うことができる	4	3	2	1
3 自分が思ったことや考えたことを言うことができる	4	3	2	1
4 自分から友だちをさそって遊ぶことができる	4	3	2	1
5 こまっている友だちがいたら、手伝ってあげることができる	4	3	2	1
6 話している人の方に向けて、話を聞くことができる	4	3	2	1
7 自分がしてほしいことは「やめて」と言える	4	3	2	1
8 言いたいことが言えなくて泣きそうになることがある	4	3	2	1
9 がんばっている友だちをほめることができる	4	3	2	1
10 学校のきまりや遊びのルールを守ることができる	4	3	2	1
11 ケンカをしている友だちを止めることができる	4	3	2	1
12 みんなといっしょに行動することができる	4	3	2	1
13 当番や係の活動を、すすんですることができる	4	3	2	1
14 勉強道具を机の中にきちんとしまうことができる	4	3	2	1
15 自分がこまっていることを親や先生に話すことができる	4	3	2	1

ぬけているところがないか、もういちど、たしかめてください。

ver. 2019.1.2 (小学校低学年版)

子ども理解支援ツール『ほっと』

新規データ入力

クラス情報 年 組 名

アンケート実施 年 月

回答者 選択▼

①新規データを入力します。クラス情報、アンケート実施日、回答者を入力後にボタンを押してください。

フォルダの読み込み

指定されたデータフォルダ

※旧ほっとのデータは新規データ入力から作成してください。

①入力済データが保存されているデータフォルダを読み込みます。

学級プロフィール

群間比較シート

経時変化シート

①学級全体の傾向や生徒の特徴を分析します。

①任意の群間差（性差など）を分析します。

①複数回実施したデータを分析します。

アンケート用紙印刷

サマリー印刷

印刷するデータシート 選択▼

①アンケート用紙を印刷します。

①入力済データの一覧表を右から選択して印刷します。

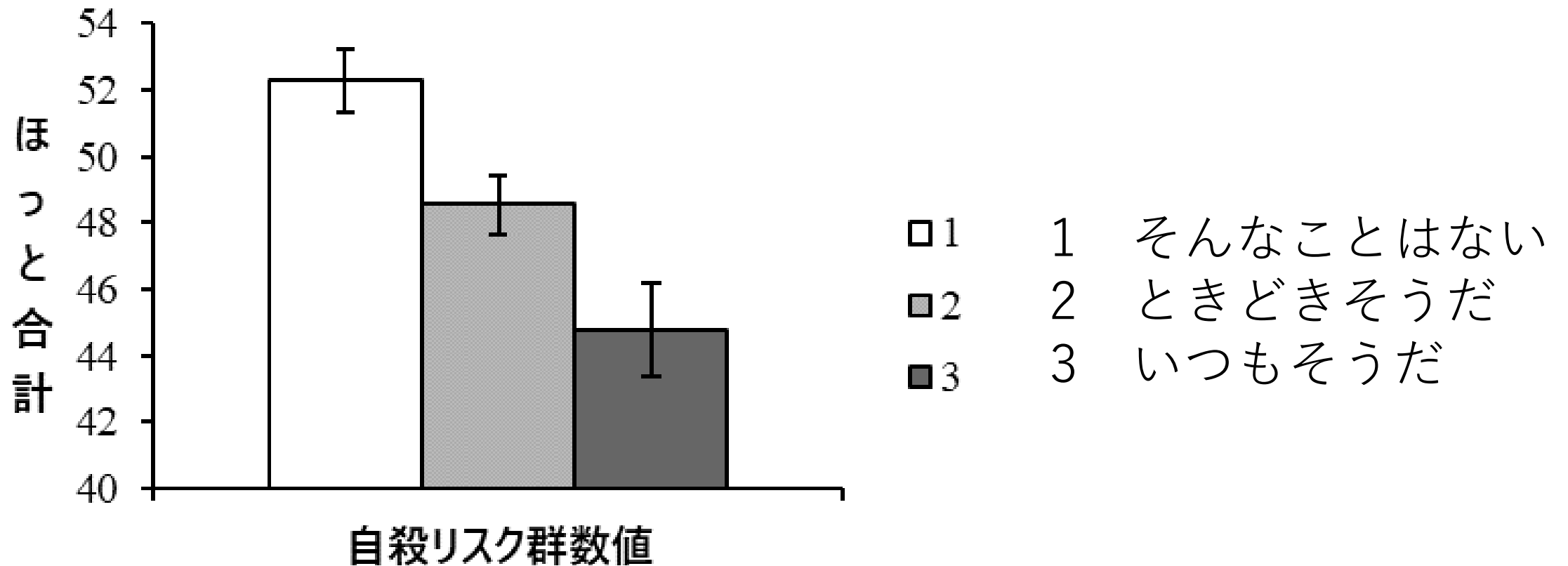


北海道教育委員会のHPより入手可能

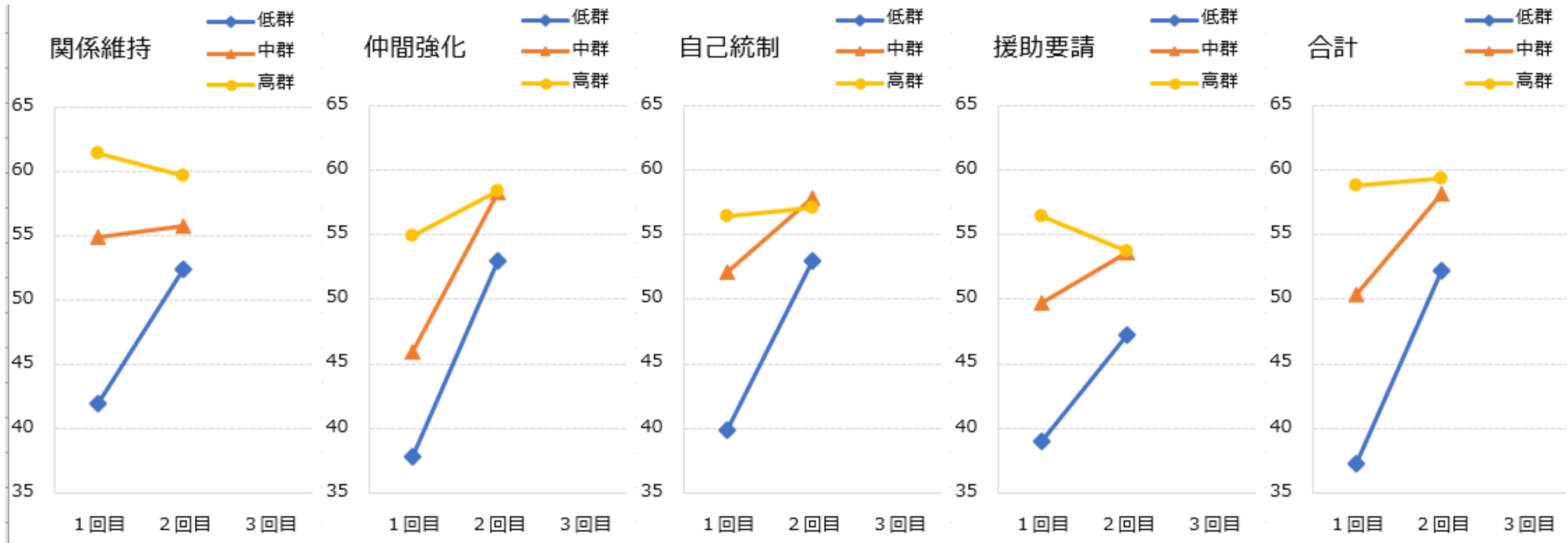
- ・小学校低学年版
- ・小学校中学年版
- ・小学校高学年版
- ・中学校版
- ・高等学校版

コミュニケーションスキル尺度(ほっと)からみた高校生の自殺リスク

生きていてもしかたがない



PDCAを回す～高校におけるほととの推移 R3年1年⇒R4年2年



「コミュ障」「性格」のせいではない。「スキルアップ」で適応改善へ！

各項目別得点の経時変化

	実施回数	礼儀	表明	参加	配慮	拒否	緊張	称賛	遵守	忠告	自律	率先	学業	相談
学級平均	1回目	3.8	2.7	3.3	3.5	2.8	2.2	3.3	3.3	2.3	3.0	2.2	3.0	3.2
	2回目	3.8	3.2	3.5	3.5	3.2	1.6	3.4	3.5	3.1	3.3	2.9	3.2	3.3